

第3期石川県ニホンザル管理計画の概要

資料3-1

1 計画策定の目的及び背景

昭和50年代後半から主に白山麓で農作物被害が発生し、近年では分布の拡大に伴い被害が拡大するなど、その被害対策が要請されている。サルによる農作物被害や生活環境被害等の解消と、歴史的な地理的分布及び遺伝的多様性に配慮した地域個体群の安定的維持の両立により、人とサルの適切な棲み分けの実現を中・長期的目標とする。

2 鳥獣の種類 ニホンザル

3 計画期間 令和4年4月1日～令和9年3月31日

4 管理の地域 小松市、白山市、金沢市（ハナレザルについては県内全域）

5 管理の目標

被害金額を令和2年度レベルから半減させ、人身被害・生活被害を防止し、分布の最前線を平成22年度水準まで後退させるとともに、全群れの加害レベルを低減させる。

6 目標を達成するための施策

(1) 数の調整

①関係市町間の連携強化

県、市町、専門家を構成員として「サル管理対策会議」を開催し、群れ分布状況、群れごとの管理方針、捕獲計画の協議・進捗状況、各市町における被害状況、捕獲状況、対策実施状況、モニタリング実施状況について協議・共有する。

②サルの生息場所に応じた群れ区分の設定（令和3年度時点）

保全群 (16群560頭)	本来の生息地である山間部に生息する群れ	⇒ 捕獲しない
調整群 (13群680頭)	里山内の集落に出没し加害する群れ	⇒ 部分捕獲又は群れ捕獲
排除群 (5群260頭)	人間活動が活発な地域に出没する群れ	⇒ 群れ捕獲

※各群れがどの群れ区分に該当するかは、「サル管理対策会議」で協議

※大規模な捕獲には、「捕獲計画」を作成し、「サル管理対策会議」で精査

(2) 被害防除対策、生息環境管理

餌付けの防止、誘引物を除去するほか、サル用防護柵の設置、追い払い、緩衝帯の整備を促進する。

7 その他

(1) モニタリング等の調査研究、計画の実施体制

モニタリングを行い、結果をフィードバックして、検討を行い、計画の見直しを行う。

①計画的な管理に向けたモニタリング

ステップ1～3：主に全県など広域を対象に群れの分布や群れごとの推定生息数、加害レベルを把握

ステップ4～5：調整群又は排除群で、特に問題となっている群れを対象に対策強化のために行動圏や頭数の詳細を把握

②捕獲状況の把握、被害状況調査、被害防除対策実施状況調査を実施

(2) その他

サル管理の知識を持つ行政内の人材育成、市町へ中間支援者としてアドバイザーを紹介するほか、鳥獣被害防止特措法との連動を図る。

ハナレザルについては、問題の長期化や人身被害の懸念がある場合は、状況に応じて適切に捕獲方法を選択する。